

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、生きて働く知識・技能の習得や未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力や人間性等の涵養を通して、未来の創り手に求められる資質・能力の育成を図る。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>①基本的な生活習慣の確立と安全・安心な学習環境の実現に向けて、きめ細かな生徒指導を行うとともに、部活動の活性化に努める。 ②キャリア教育の充実と努め、生徒一人ひとりの進路希望の実現に向け、確かな学力の育成とガイダンス機能の充実を図る。 ③校訓の「使命に生きる」の精神を踏まえ、探究活動などを通して、自己や社会についての認識を深め、高い志をもって進路実現を図る生徒の育成に努める。 ④保護者や地域社会、関係機関との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する。 ⑤新教育課程の理念や特質を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学習過程の改善に取り組む。 ⑥教職員の働き方改革の推進を受けて、業務の見直しを進めるとともに、部活動の休業日を確実に履行し、時間外労働時間の縮減を図る。</p>
--	--

<p>達成度</p> <p>A : ほぼ達成できた B : 概ね達成できた C : やや不十分である D : 不十分である</p>
--

3 目標・評価							
①基本的な生活習慣の確立と安全・安心な学習環境の実現に向けて、きめ細かな生徒指導を行うとともに、部活動の活性化に努める							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	基本的な生活習慣の確立	◇遅刻者の延べ人数を前年度より20%減少させる。 ◇特別指導の措置件数を5件以内にする。	○遅刻の増えそうな日には、事前に指導する。 ○特別指導が発生しないように、軽はずみな行動が自分自身や周りに大きな影響を与えることを、前もって認識させる。	B	○遅刻者数は、昨年度比48%の増加となった。1年生の遅刻増加が主たる要因である。 ○特別指導措置は、件数及び対象生徒数共に前年度に比べて減少し、落ち着いた学校生活・家庭生活を過ごすことができた。	○新年度当初より5分前行動の習慣を定着させるように指導する。特に1年生は、宿泊研修を通じ入学当初から高校生としての心構えをしっかり持つ指導を行う。 ○全体には、生徒一人一人が自律と他律を心構えに持つ指導を行う。
		ルールの順守とマナーの向上	◇乗車マナー指導を各学期に1回以上実施する。 ◇駐輪場の整理整頓・施設を指導する。 ◇交通事故件数を20件以内にする。	○毎朝の登校指導を行う。 ○各学期に1回以上、通学路にも職員を配置して指導する。 ○学年ごとに駐輪場を指定し、定期的にチェックする。 ○昨年度の交通事故データを元に事故減少のための注意喚起を根拠強く行う。	B	○毎朝の登校指導を確実に行うことができた。また、再登校を必要とする生徒は2名いたが大きく減少した。 ○各学年の生徒指導担当により月1回の自転車施設チェックを行うことにより施設率が向上した。また、自転車事故件数も減少した。	○登校指導、施設チェック、交通事故予防指導を継続的にを行い、現状に問題点がある場合は、早め早めにクラス、学年、全校で指導を行っていく。
		教育相談活動の充実	◇担任・教科担当者・養護教諭ならびに家庭と連携して、困難を有する生徒の状況を積極的に把握し、早期の支援に取り組む。 ◇必要に応じて外部機関との連携を図る。	○欠席や欠課を確認し、学校生活に集中できない状況が見込まれる生徒に、カウンセラーとの面談などの支援を積極的に働きかける。 ○学校生活に困難を有する生徒の情報を、ケースごとに職員間で共有する。 ○校外の医療機関や専門機関と連携して、個々の生徒の状況に応じた支援を行う。	B	○スクールカウンセラーとの面談を積極的に活用できた。 ○生徒の情報について担任と共有できた。 ○校外の医療機関や専門機関とはうまく連携できていない。	○来年度も、スクールカウンセラーをしっかり活用したい。 ○これからの生徒の情報について、担任・学年団と共有できる機会を増やしたい。 ○外部専門機関との連携を、今年度以上に図ってきたい。
		人権・同和教育の推進	◇すべての生徒が差別を許さず、差別をなくしていく民主社会の形成者となるように、その育成に努める。 ◇すべての生徒がそれぞれの個性を認める多様性のある社会を実現できるように、その育成に努める。	○担当者が他校のホームルームや様々な研修を参観し、十分な職員研修を行い人権・同和教育のホームルーム活動等を実施する。 ○学校生活を落ち着いて送れるための雰囲気作りを確保するために、教師が見本となる言葉遣いや態度で生徒の指導にあたる。	B	○定期的に実施した校内での人権・同和教育研修会に、数多くの職員が意欲をもって研修に参加し、内容の充実した研修をすることができた。 ○課題としては、職員研修の成果をいかに生徒に分かりやすくフィードバックするまでである。その課題克服ができれば、学校全体で人権・同和教育に関する意識の高まりが期待できる。	○次年度導入予定の男女混合名簿やLGBTQに代表される性の多様性等に対し、まずは職員が積極的に受け入れ対応することができ、生徒の認識も深まることが期待できる。 ○部落差別解消推進法の施行やアイヌ文化振興法に対する職員のより一層の理解促進に努める。
教育活動	●健康・体づくり	清掃活動及び健康増進の充実	◇学校生活に適した環境づくりを推進する。	○清掃活動を充実し、校内美化に努める。特に教室の整理整頓を徹底する。 ○ゴミの分別を徹底する。 ○美化情報等を適時に発信する。	C	○清掃活動は各担当がそれぞれの場所で指導を行い、校内美化に努めることができた。教室の整理整頓は、担任の温度差があった。 ○ごみの分別は、年間通して指導することがあり、課題が残った。 ○美化情報を発信することができなかった。	○清掃活動のための掃除用具を充実させる。また、教室の整理整頓は美化委員と協力して行う ○ごみの分別は常時呼びかけを行い、注意喚起をする。 ○美化情報の発信方法を保健部として検討する。
		部活動の活性化の推進	◇新入生の入部率を80%以上にする。 ◇ボランティア活動を積極的に起こす。 ◇学校ホームページの部活動の欄を充実させる。	○部活動紹介や体験入部の内容をより豊かにすることで、入部を促す。 ○ボランティア活動の案内や参加を積極的に促す。 ○部活動の状況について新しい情報を収集し、適宜発信する。	C	○部活動の活動報告を後援会役員会にて行うなど、今まで以上に広報に取り組むことができた。 ○新入生の部活動加入率は目標に届かず、特に女子の加入率が低かった。	○部活動に係る学校HPの更新などを、部顧問に対し定期的に行い呼びかける。 ○部活動の効用や魅力等について、今まで以上に情報を発信していく必要がある。
学校経営	●いじめの問題への対応	組織的な対応	◇いじめの未然防止に努める。 ◇いじめの早期発見、早期対応、被害の最小化に努める。 ◇被害生徒の回復に向けて、組織的に支援する。	○ホームルームや生徒会活動、教科指導等を通し、好ましい人間関係等、いじめ問題についての適切な指導を行う。 ○いじめの疑いの認知やいじめの認知に至った場合は、速やかにいじめ・体罰等対策委員会等を招集して対応を協議、遂行する。 ○被害生徒の状況を継続的に確認する。	C	○全職員いじめ問題についての適切な指導を行っている。 ○認知や認知報告が遅れ、いじめ防止対策委員会など早期の対応ができなかった。 ○継続的な状況確認もできなかった。	○来年度は、今年度よりもいじめ問題が発生しないように、組織的に広報啓発活動を行いたい。 ○いじめ防止対策委員会など、早期の対応を心掛けたい。 ○継続的な対応ができるように、被害生徒との現況把握に努める。

②キャリア教育の充実へ努め、生徒一人一人の進路希望の実現に向け、確かな学力の育成とガイダンス機能の充実を図る							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	キャリア教育の充実	◇教育課程内外を通じて体系的・総合的な教育活動の中で①人間関係形成・社会形成能力②自己理解・自己管理能力③課題対応能力④キャリアプランニング能力⑤専門的知識・技術・技能の5つの能力の育成を目指す。	○宿泊研修や修学旅行を通して、他者の個性や自己の役割を理解する力、コミュニケーションスキルを身につける。 ○大学訪問や職場体験を通して様々な課題を発見し、その課題を適切に処理解決する力を身につける。 ○職業理解ガイダンスや進路別説明会で、働くことや学ぶことの目的・意義を理解し、生き方の多様性を理解する。 ○様々なキャリア教育活動の記録をポートフォリオに残し、振り返りの中で自己の成長を確認できるようにする。	B	○宿泊研修や修学旅行などの団体行動を通して、自分の役割を理解し他者とのコミュニケーションをとることができた。 ○大学訪問や職場体験を通して課題を発見することや、その課題を解決する力を身につけることができた。 ○1年生で職業理解ガイダンスを、3年生で進路別説明会を実施し、働くことや学ぶことの意義を理解し、自分の進路を明確にすることができた。 ○様々な活動においてClassiを利用してポートフォリオに残すことができた。	○引き続き継続して、職業理解ガイダンスや大学訪問、進路別集金や職場体験などを実施しキャリア教育の充実を図る。その際、様々なキャリア教育の活動記録を残せるよう、Classiのポートフォリオ機能を最大限に利用する。
		進路希望の実現	◇国立大学10名以上、難関私立大学10名以上を目指す。 ◇進学希望者それぞれの第一志望合格を目指す。 ◇就職希望者全員の希望職種への就職を目指す。	○全国模試を起点としたPDCAサイクルをまわし、チェックの機会として学力検討会を開催し、生徒の状況把握と授業の方針について常に情報を更新し、効果的な授業を展開できるようにする。 ○的確な入試情報の提供を行い、合格に必要な力を育成するための支援を行う。 ○面接練習やマナー講座を企画し、就労意識を高める。 ○会社訪問を積極的に行い、求人の開拓をする。	C	○模試を利用した学力検討会の効果的な実施ができなかった。 ○インターネットや情報紙を利用して入試の情報を提供し、合格に必要な支援をすることができた。 ○講師を依頼しマナー講座を実施することができた。また、多くの職員による模擬面接により、就労意識を高めることができた。 ○企業訪問を3年学年団を中心に行い、求人の開拓をすることができた。	○模試分析を行う。 ○学力検討会の資料作成を簡略化し、実施しやすくする。 ○情報紙等の精選を行いより現状にマッチした情報を提供する。 ○面接練習やマナー講座は引き続き実施する。
③校訓の「使命に生きる」の精神を踏まえ、探究活動等を通して自己や社会についての認識を深め、高い志をもって進路実現を図る生徒の育成に努める							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	総合的探究の時間の充実	◇年間計画にもとづき、自己の特性や社会構造を知り、自分がどのような形で社会に貢献できるか(使命に生きることができるか)を考える。	○「職業理解ガイダンス」や「出前講座」を通して働く意義や自己の社会での役割を考えさせる。 ○探究活動を通して、自ら研究テーマを設定し、課題解決のために、情報を集め、整理・分析し、校内発表会等で発表する。	B	○職業理解ガイダンスを1年生で2回実施した。また、出前講座を行うことにより、地域の問題や課題について深く考えることができた。 ○探究活動を通して、グループでテーマを考え、研究・分析・整理し、校内発表会を実施することができた。学校評価アンケートにおいても、生徒、保護者、職員とも8割以上が適切な進路指導ができていますと評価している。	○探究活動が単なる調べ学習とならないように事前指導に力を入れる。また、学年発表や校内発表などの表現の場にも工夫をこらす。 ○地域とのつながりが感じられる活動も実施していく。
		HR活動の時間の充実	◇他者の個性を理解し認め合うことで、よりよい人間関係を形成する。 ◇自らの夢や目標の実現に向けて努力する資質を高める。	○学校での生活を充実させるための課題とその解決策を主体的に考える場を提供する。 ○地域とのつながりを意識し、郷土に対する愛着を育み、誇りを持たせる。	B	○各種講演会等の企画と運動したHR活動を行い、生徒が自己理解を深めたり、新たな知見を広めたりして、学校生活を充実させることができた。 ○行事と運動したHR活動では、生徒のより充実した活動を目指した意欲的な取り組みを引き出すことができた。 ○地域とのつながりを意識する活動場面を増やし、相互交流を図ることを目指した活動を十分に引き入れることができなかった。	○講演会等の企画や行事等と運動した活動は、生徒も見通しを持って積極的に活動しやすかったり、自分自身に関わることで意欲的に活動することができるので、継続していきたい。今後は、さらに企画や行事を組み合わせることも考えていきたい。 ○地域との相互交流を図る活動にはまとまった時間が必要になることも考えられるので、時間割変更でまとも取りをして、時間を確保していきたい。
④保護者や地域社会、関係機関との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○地域社会等との連携	地域貢献活動の推進	◇地元自治会等と連携・連絡を密にし、地域主催行事への協力等を通して、地域社会における信頼感の醸成に努める。また日頃より学校の活動を理解してもらうためにも情報発信を心がける。積極的に生徒の地域へのボランティア体験を推奨することで生徒の地域や佐賀県全体への誇りを育成する。	○「学校だより」の紙面、その他さまざまな機会を通して、本年度の重点目標についての広報を行い、生徒・保護者への周知・浸透を図る。	B	○ボランティア活動を部活動単位や個人単位で行い、地域住民だけでなく県民の皆様に対して貢献することができた。その体験を通して生徒自身も成長につながったと感じる。 ○北川副町をはじめ佐賀市や県、日本赤十字社など様々な団体と連携し、ボランティア活動を行うとともに関係機関の広報誌において活動の様子を取り上げてもらうことができた。	○スクールニュースなどにおいて、活動の報告とお知らせを行うことは出来ないか。活動から広報までのタイムラグをできるだけ短くすることで、生徒間の教室内での会話につながり、活動を行った生徒が、より誇りに思えるようになり、家庭内の会話で学校の話になり、学校への好感度アップにつながるのではないかと考える。
		教育目標や重点目標の周知	◇生徒・保護者アンケートにおける教育目標や重点目標の認知率が半数を上回るよう、周知に努める。	○学校だよりや学校ホームページ等、生徒・保護者向けの発信媒体を通じて、重点目標がわかりやすく伝わるように工夫する。	B	○アンケート結果から、生徒及び保護者の8割程度が、学校による教育目標と重点目標の周知への取組に対して肯定的な評価であった。	○教育目標をわかりやすい表現に変えたり、重点目標の項目をより絞り込んだりするなどして、生徒・保護者にも理解しやすいものとなるような工夫を考える。
		○開かれた学校づくり	外部への積極的な情報発信	◇学校だより「飛翔」を年5回発行する。 ◇学校HPの更新に努める。 ◇学校紹介パンフレットを充実させる。	○学校だより「飛翔」を充実させ、全校生徒はもとより地域住民の方々にも生徒会と協力して配布する。また、中学校への学校説明会や体験入学の際にも配布し、情報を発信する。 ○SEI-Netを活用し学校HPの更新に努め、内容を充実させ、保護者地域の方々に関心を持っていただく工夫を行う。 ○学校紹介のパンフレットの更なる充実を目指し、本校生徒の魅力が伝わるパンフレットを作成する。	B	○学校だより「飛翔」は、内容面での充実を図り発行することができたが、地域住民の方々向けや中学校の学校説明会、体験入学等に係る情報発信については、やや物足りない面もあった。 ○「学校HPの更新」は、最低限の更新はできたものの、一部不十分な面もみられるため、引き続き更新に努める。 ○「学校紹介パンフレット」は、内容を充実させ発行することができたが、今後は、抜本的な見直しも含め検討する必要がある。

⑤新教育課程の理念や特質を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学習過程の改善に取り組む							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○新教育課程への対応	職員の研修・研鑽の推進	◇教科単位の研究会や、ICT活用教育研修会、教育センター等での研修等を通じて、新教育課程への理解を深め、教職員自身が「高い志」をもってさらなる授業改善に務める。	○校内外における研修の機会を積極的に活用できるよう、情報提供と環境作りを努める。 ○教職員が互いに授業を参観、意見交換を行いやすい状況を醸成する。	B	○新教育課程の理解に向けて、積極的に研修への参加しようとする職員が増えた。また、ICT活用教育推進の事例発表を行う職員もいるなど、意欲的な取組が見られた。職員の研鑽の機会を確保できるような環境作りを進めていく。 ○公開授業や各教科の研修会の際に授業を見合う、見せ合う環境は醸成できた。	○これからも、教頭、教務、進路指導、図書・研修等の部署から積極的にアナウンスを行っていくこと、研修に参加しやすい環境作りは続けていく。 ○様々な行事を通じて、負担を増やさず参観できる環境を整えていく。互いに見せ合う環境から授業力の更なる向上を図っていく。
		新カリキュラムへの取り組み	◇新カリキュラム実施に向けて教育課程の作成に着手し、原案をまとめる。	○新カリキュラム実施に向けたカリキュラム委員会を開催し、各教科の意見をとりまとめる。	C	○新カリキュラム作成に着手し、各教科から希望は集約済みである。それぞれの教科の思いや、学校の方針、生徒の現状、進路状況等を考えて原案を作成している段階である。	○様々な事情が複雑に絡んでいるため、パターンを数種類提示して、それをたたき台として、まずは議論を始めたい。その中で、学校としての方針が明らかになっていくと思われる。

⑥教職員の働き方改革の推進を受けて、業務の見直しを進めるとともに、部活動の休養日を確実に履行し、時間外労働時間の縮減を図る							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校経営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	時間外労働時間の縮減	◇月別時間外労働時間100h超者の延べ人数を、前年比10%減らす。 ◇定時退勤日を毎月1日以上設ける。	○「部活動に係る活動方針」に沿って、部活動の休養日の適切な設定を、各部顧問に要請する。 ○行事予定表に掲載するなど、早めに周知を図り、無理なく定時退勤できるよう計画的に実施する。	C	○月別の時間外勤務時間100時間超の人数は、前年比で寧ろ多少増加する結果となった。 ○休養日を組み込んだ部活動の練習計画の策定は行われたものの、計画とおりの実施ができなかった部活動も多かった。 ○定期考査中に定時退勤日を設けることはほぼできた。	○職員の意識を変えるための研修を実施する。 ○部活動の休養日について、保護者の理解を深めるための通知等を様々な機会を通じて配布する。 ○年度当初の年間行事計画の中に、定時退勤日を明記する。

⑦その他の評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○読書活動の推進	図書室の利活用促進	◇学校図書館の計画的な運用を心がけ、図書館関係の学校行事を充実させる。 ◇今年度より図書研修部となり、「さがを誇りに思う教育」、「主権者教育」との連携を図り、学校図書の観点から企画運営を積極的に行う。	○図書館報を充実することで、学校図書や書籍について関心を持たせ、貸出冊数や図書館利用者の増加を推進する。 ○図書選定の際、生徒へのリクエスト調査を行い、関心の高い書籍を購入する。 ○クラス読書会を年2回実施して、本を読む楽しさを生徒に伝えるとともに図書館への関心を増幅させる。 ○「さがを誇りに思う教育」や「主権者教育」を意識し、それに関する書籍の導入を心がける。	C	○図書館報の発行とその内容の充実には努めたが、貸出冊数の増加や図書館利用者の増加には結びつかなかった。 ○「さがを誇りに思う教育」や「主権者教育」を意識し、それに関する書籍の購入を行ったが、期待するほどには利活用が進まなかった。まずは、図書館に生徒の足が向くような企画について、試行錯誤する必要がある。	○具体的目標、具体的方策については本年度のものを次年度も継続し、それに加えて、映画化された書籍や、スポーツ・日本史・世界史を題材とした漫画本、体験トレーニングなど部活動の生徒・顧問が興味を持つ書籍や雑誌の充実を図る。 ○校内読書会で採用する本の選定を生徒に行わせるなど、クラス図書委員の更なる活用を工夫する。

4 本年度のまとめ・次年度の取組
<p>○評価項目の「心の教育」では、4つの評価の観点すべてにおいて、概ね達成できた、という達成度であった。しかし、次年度に向けて改善が必要な部分や、新たに取組まねばならない課題等も上がっており、気持ちも新たに、次年度に取り組む必要がある。</p> <p>○評価項目の「健康・体づくり」と「いじめ問題への対応」では、三つの評価の観点すべてにおいて、「やや不十分である」という達成度であった。今年度の反省を踏まえて、次年度の取組に生かす必要がある。</p> <p>○評価項目の「学力の向上」「志を高める教育」「地域社会等との連携」「開かれた学校づくり」では、「学力向上」「進路希望の実現」の観点を除き、「概ね達成できた」という達成度であった。また、「進路希望の実現」は、達成度が「やや不十分」であったが、成果も多く見られた。</p> <p>○評価項目の「新教育課程への対応」「業務改善・教職員の働き方改革の推進」「読書活動の推進」では、「新教育課程への対応」の「教職員の研修・研鑽の推進」を除き、いずれも達成度が「やや不十分である」であった。反省を踏まえて、次年度に生かしたい。</p>
●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目